

【概要】

1. 哺乳類

前回の鳥取県レッドリスト選定時に鳥取県から記録されていた哺乳類は7目17科44種（クジラ目をのぞく）だったが、当時、知見の乏しかったコウモリ類の調査がある程度進み、現在は7目18科48種となっている。

どの種も過去の生息状況については資料が乏しいが、現在知られる生息状況と中国地方全体での生息状況をも考慮して、25種をレッドリスト掲載種として選定した（前回は19種）。内訳は「絶滅」が4（ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、ニホンアシカ、ニホンカモシカ）、「絶滅危惧Ⅰ類」が1（オヒキコウモリ）、「絶滅危惧Ⅱ類」が6（ミズラモグラ、ヒナコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、ヤマネ、ツキノワグマ）、「準絶滅危惧」が9、「情報不足」5である。

今回、新規に追加されたのは、コウモリ類の5種（ヒナコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、オヒキコウモリ）とニホンカモシカ（絶滅種として追加）の合計6種である。コウモリ類のうち、テングコウモリをのぞく4種は鳥取県内の生息が最近確認されたばかりで過去の生息状況は不明であるが、いずれも生息地が限定され生息基盤が脆弱と考えられるため、選定さ

れた。

ランク変更は4種で、うちニホンモモンガはその後の調査で比較的安定して生息していると判断されたためランクを1段階下げたものである。ヒメヒミズとヤマコウモリはもともと生息記録が乏しかったがその後も未確認のため（ヒメヒミズは未調査）、今回は「情報不足」相当とした（前回は「準絶滅危惧」）。これらの「情報不足」は危険度が下がったことを意味するものでないことに注意していただきたい。キクガシラコウモリは比較的心配が少ない種と考えられるが、洞穴の調査が十分でないので、「情報不足」で残した。

「絶滅種」に指定した4種（ニホンカモシカは今回新たに追加）は、県内の縄文・弥生期の遺跡から出土しているもので、「絶滅種」の定義に絶滅年代の範囲をどこまで含めるかについて議論もあったが、いずれも民間伝承や江戸時代の古文書等での記述、あるいは明治時代の毛皮の存在などから、近世まで生息していたと考えられるものであることから、「絶滅」としてリストに含めた。

（小林朋道・鶴崎展巨^{のぶお}）



ミズラモグラ



ヒメホオヒゲコウモリ



コテングコウモリ



ニホンモモンガ



ヤマネ



ツキノワグマ

カワネズミ トガリネズミ形目トガリネズミ科
Chimarrogale platycephala (Temminck, 1842)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



広島県北広島町 (旧芸北町) 1991.9.19/撮影：保井 浩

■**選定理由**：局所的に分布し、個体数が少ない。堰堤やコンクリート護岸により生息地の分断や破壊が進行している。

■**特徴**：頭胴長100–130 mm，尾長90–120 mm，体重25–55 g程度。大型のトガリネズミで、背面は灰色または黒褐色。手足の指には剛毛があり、水かきの役割をしている。河川の中・上流域に生息する。魚類、水生昆虫などを食べ、川岸の土中にトンネル状の巣穴を作る。

■**分布** 県内：岩美町，八頭町，若桜町，智頭町，鳥取市，倉吉市，日南町。県外：本州，九州。日本固有種。

■**保護上の留意点**：堰堤やコンクリート護岸は、本種の移動を妨げ、餌資源の減少や繁殖場所の消失に繋がる。川岸の自然護岸を極力残す等の保全対策が必要である。記録の少ない県中・西部を含め県下における本種の生息実態調査が早急に必要である。

■**文献**：11, 64.

執筆：岡田 純

ヒメヒミズ トガリネズミ形目モグラ科
Dymecodon pilirostris (True, 1886)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：澤島拓夫

■**選定理由**：大山夏山登山道で1968年に4個体 (3雄, 1雌) が記録されている。生息地の局限度が強いと考えられるが、詳細な現状が不明であるため今回は情報不足とした。

■**特徴**：非常に小型で、モグラとトガリネズミの中間の外形。尾が長い。頭胴長70–80 mm，尾長35 mm，体重8–15 gほど。おもに昆虫類，ミミズ類を捕食。春に繁殖し，寿命は通常2年余。

■**分布** 県内：鳥取県大山夏山登山道。県外：本州中部以北と紀伊半島，四国，九州の一部の山岳地 (日本固有種)。

■**保護上の留意点**：山地自然林の保全とともに，現在の生息状況の実態調査が必要。

■**文献**：3, 70.

執筆：巖城 隆

ミズラモグラ トガリネズミ形目モグラ科
Euroscaptor mizura (Günther, 1880)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)
(“亜種ヒワミズラモグラ”で掲載)

氷ノ山 2002.7.12 岡田珠美採集個体/撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：分布の局限度が高い。

■**特徴**：頭胴長80–100 mm内外，尾長20–25 mm程度の小型の真性モグラで、ヒミズよりはやや大きく、耳介を欠く。尾は比較的長く、通常後足の1.5倍以上の長さがある。毛は灰褐色から黒色で地域によりまたは個体により変異する。低山帯から高山帯までの森林に生息するが、生息数は多くない。本種は3亜種に分けられており、環境省レッドリストでは亜種単位で掲載されている。本県の個体群は分布域からおそらくヒワミズラモグラ *E. m. hiwaensis* (Imaizumi, 1955) に相当。

■**分布** 県内：氷ノ山より4回 (1991 [兵庫県側], 1994, 2002, 2007年), 三朝町で1回 (2005年) 確認されている。県外：本州 (広島県から青森県)。日本固有種。

■**保護上の留意点**：森林の保全に加え、県内での分布状況、生態はまだ不明な点が多く、それらの調査が必要。

■**文献**：1, 4, 17, 31, 51.

執筆：岡田珠美・一澤 圭

アズマモグラ トガリネズミ形目モグラ科
Mogera imaizumii (Kuroda, 1957)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：横畑泰志

■**選定理由**：1955年, 1957年に西部で記録があるが, その後, 確認の報告はない。学術的な調査が行われていないことも未確認の大きな原因の一つと考えられ, 現存の可能性もある。本種の生息記録は西日本では少なく, 鳥取県内における生息は学術的にも, 生物多様性の面でも貴重である。

■**特徴**：小型ないしは中型のモグラで, 体の大きさは変異に富む。平野産の個体は大型, 山地産, 渓谷産のものは小型という傾向がある。

■**分布** 県内：西部。県外：本州中部以北, および紀伊半島南部を含む本州南部各地, 四国, 小豆島 (日本固有種)。

■**保護上の留意点**：日本全体では, 低地から2000 m程度までの山地で生息が確認されている。平地や山地の開発においては, 本種生息の可能性も念頭においた取り組みが望まれる。

■**文献**：2, 3, 18, 69.

執筆者：小林朋道・巖城 隆

コキクガシラコウモリ 翼手目 (コウモリ目) キクガシラコウモリ科
Rhinolophus cornutus Temminck, 1835

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：子安和弘

■**選定理由**：分布の局限度が高い。

■**特徴**：頭胴長35–50 mmほど, 前腕長40 mm内外, 体重5–9 gほど。外部形態はキクガシラコウモリに似るが, 体の大きさは約1/2と小さい。体毛は淡い褐色。鼻葉をもち, ここから超音波を出すのはキクガシラコウモリと同じだが下唇の裸出板の切れ込みは3本である。洞穴性で自然洞窟のほか, トンネル等の人工物も使用する。おもに日没後, 小型のガ等柔らかい体の飛翔昆虫を捕食し, 日の出前に帰洞する。

■**分布** 県内：岩美町竜神洞。県外：北海道・本州・四国・九州。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる洞窟の保全に加え, 県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：19, 32, 58, 61, 68.

執筆者：岡田珠美・一澤 圭

キクガシラコウモリ 翼手目 (コウモリ目) キクガシラコウモリ科
Rhinolophus ferrumequinum (Schreber, 1774)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：子安和弘

■**選定理由**：分布の局限度が高いが, 県内の生息情報が少なく現状不明。

■**特徴**：頭胴長60–80 mmほど, 前腕長60 mm内外, 体重20–35 g程度。体毛は淡い褐色で鼻葉がある。コキクガシラコウモリに似るが, 大きさで明瞭に区別できる。下唇の裸出板の切れ込みは1本である。洞穴性でふつう自然洞窟, トンネル, 廃坑等に生息し, おもに森林内でガなどの夜行性飛翔昆虫を捕食する。夏季には妊娠雌を中心に50–200頭程度のコロニーを形成する。冬眠期には単独, または個体同士の接触を持たない粗群で見られることが多い。

■**分布** 県内：岩美町, 鳥取市, 若桜町, 倉吉市, 三朝町, 江府町, 日南町。県外：北海道, 本州, 四国, 九州; ヨーロッパ, モロッコからインド北部, 中国, 朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる洞窟の保全に加え, 県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：20, 48, 53, 54, 58, 61.

執筆者：岡田珠美・一澤 圭

ヒナコウモリ 翼手目 (コウモリ目) ヒナコウモリ科 *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



氷ノ山自然ふれあい館 2005.11.16/撮影：岡田珠美

■**選定理由**：全国的に森林伐採等による生息地が減少していると考えられている。県内では1カ所で確認されているのみ。

■**特徴**：頭胴長約70–80 mm，前腕長50 mm内外，体重15–30 gほど。中型の大きさで暗褐色の体毛に白っぽい長毛が混じり，霜降り状に見える。本来は樹洞をねぐらとするが，岩の割れ目，橋げたの隙間，学校や寺社等建造物の屋根裏を使用することもある。県内では冬期間閉鎖している民家の中で発見された。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州，四国，九州；シベリア東部，中国東部，朝鮮半島，台湾。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる樹洞およびそれを取り巻く森林環境の保全に加え，県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：36, 43, 50, 52, 56。

執筆：岡田珠美・一澤 圭

ヒメホオヒゲコウモリ 翼手目 (コウモリ目) ヒナコウモリ科 *Myotis ikonnikov* Ognev, 1912

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)
(“フジホオヒゲコウモリ”で掲載)

若桜町春米東因幡林道 2008.8.11/撮影：岡田珠美

■**選定理由**：生息地の減少および分布の局限度が高い。県内では1カ所で，中国地方でも広島県と鳥取県の2県で確認されているのみ。

■**特徴**：頭胴長40–50 mm，前腕長30–40 mm，体重4–8 gほど。小型のコウモリで体毛は黒褐色からこげ茶。枯死木や樹皮下，家屋，自然洞窟などがねぐらとして知られている。山地から亜高山の主として自然林に生息する。カスミ網による調査では林道で捕獲されることが多い。食性や冬眠時期，冬眠場所など不明の点が多い。本種を形態的特徴から5種に分けるとする考え方もあり，それに従うと本県で確認された個体は“フジホオヒゲコウモリ *M. fujiensis*”に該当する。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州。西日本ではごく局地的；シベリア東部，朝鮮半島，サハリン。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる樹洞およびそれを取り巻く自然林の保全に加え，県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：34, 53, 63。

執筆：岡田珠美・一澤 圭

モモジロコウモリ 翼手目 (コウモリ目) ヒナコウモリ科 *Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



広島県/撮影：保井 浩

■**選定理由**：分布の局限度が高い。

■**特徴**：頭胴長45–60 mm，前腕長35–40 mm，体重10 g内外。体毛は灰黒褐色で腹面は背面より白い。下腹部から大腿部に白毛が密生。洞穴性でももに自然洞窟，廃坑，防空壕等で休息し，湖沼や河川の水面上，丘陵地，森林で採食する。夏季には雌雄が集まって出産哺育コロニーを作る。キクガシラコウモリやユビナガコウモリなど他の洞穴棲コウモリ類と混群を形成することもある。

■**分布** 県内：岩美町竜神洞。県外：北海道，本州，四国，九州；シベリア東部，サハリン南部。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる洞窟の保全に加え，県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：21, 33, 55, 59, 61。

執筆：岡田珠美・一澤 圭

ヤマコウモリ 翼手目 (コウモリ目) ヒナコウモリ科
Nyctalus aviator Thomas, 1911

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：上野吉雄

■**選定理由**：古い文献（1955, 1964年）に記録されるのみで、現存すれば生息地の局限度が高いと考えられる。ただし、現状が不明なので今回は情報不足とした。

■**特徴**：頭胴長90–110 mm, 前腕長60 mm, 体重30–60 g程度。日本の小型コウモリ類の中の最大種。体毛は明るい茶色で光沢を帯びる。出産哺育は雌だけの20–50頭以上の大きな集団で行われる。その間、オスは1~数十頭に分散し、小樹洞や巣箱等を利用する。それ以外は大木の樹洞をめぐらし、50–100頭を超える大集団をつくる。遠距離飛行が得意なことから遠方まで採餌に出かけると考えられている。

■**分布** 県内：日野郡。県外：北海道, 本州, 四国, 九州；中国東部, 朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる大木の樹洞およびそれを取り巻く自然林の保全に加え、県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：10, 22, 35, 42, 44.

執筆：岡田珠美・一澤 圭

ユビナガコウモリ 翼手目 (コウモリ目) ヒナコウモリ科
Miniopterus fuliginosus (Hodgson, 1835)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岐阜県揖斐郡揖斐川町のトンネル内 2006.3.29/撮影：山本輝正

■**選定理由**：分布の局限度が高い。

■**特徴**：頭胴長60–70 mm, 前腕長50 mm, 体重10–15 g内外。体毛は短く、こげ茶色。洞穴性で自然洞窟のほか、トンネルや廃坑等の人工物もねぐらとして利用し、数百頭以上の大群を形成する。翼は長距離飛行に適した狭長型で、行動範囲が広い。河原、丘陵など開けた場所で小型の飛翔昆虫を捕食する。

■**分布** 県内：岩美町竜神洞。鳥取市で死体が採集されたこともある。県外：本州, 四国, 九州；アフガニスタンからインド, 中国。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる洞窟の保全に加え、県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：8, 23, 37, 60, 61.

執筆：岡田珠美・一澤 圭

テングコウモリ 翼手目 (コウモリ目) ヒナコウモリ科
Murina hilgendorffi (Peters, 1880)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



氷ノ山自然ふれあい館 2007.9.12/撮影：岡田珠美

■**選定理由**：全国的に森林伐採等による生息地が減少していると考えられている。県内では1カ所で確認されているのみ。

■**特徴**：頭胴長60–70 mm, 前腕長40–45 mm, 体重8–15 g程度。鼻孔がやや外側に向かって筒状に突出する。体毛は灰褐色で、さらに先端に銀色の金属光沢を帯びた刺毛に覆われている。腿間膜は上面や後縁にも長い毛がある。大木の多い地域では樹洞をねぐらとするが、洞穴内でも見つかる。一般に森林中の下層で捕食するらしい。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道, 本州, 四国, 九州。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる樹洞およびそれを取り巻く森林環境の保全に加え、県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：38, 45, 52, 56.

執筆：岡田珠美・一澤 圭

コテングコウモリ 翼手目 (コウモリ目) ヒナコウモリ科

Murina ussuriensis Ognev, 1913

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



氷ノ山東因幡林道 2008.8.13/撮影：岡田珠美

■**選定理由**：全国的に森林伐採等による生息地が減少していると考えられている。県内では1カ所で確認されているのみ。

■**特徴**：頭胴長40–50 mm内外，前腕長30 mm内外，体重4–7 g内外。鼻孔がやや外側に向かって筒状に突出する小型種である。体毛は黄土色から薄茶色。腿間膜は上面や後縁にも長い毛がある。大木の多い地域では樹洞をねぐらとするが，樹皮の間隙，家屋内，洞穴でも見つかる。夏から秋にはトチノキ，クズ，ヤマブドウ等のしおれて丸まった葉の中で休憩している例が見つまっている。夜間に樹間で飛翔する昆虫類を捕食するが，葉上に静止する昆虫類も捕えるらしい。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州，四国，九州；シベリア東部および東北部，サハリン，千島列島，朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：ねぐらとなる樹洞およびそれを取り巻く森林環境の保全に加え，県内での生息状況の調査が必要。

■**文献**：39, 46, 52, 53, 56.

執筆：岡田珠美・一澤 圭

オヒキコウモリ 翼手目 (コウモリ目) オヒキコウモリ科

Tadarida insignis (Blyth, 1861)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



鳥取市若葉台鳥取環境大学内/撮影：小林朋道

■**選定理由**：本種は国内産食虫性コウモリのうちもっとも生活史が解明されていない種の一つで，国内でも定住する隠れ家は数カ所しか見つかっていない。鳥取県では，2006年にはじめて1個体が発見されたのみで県内での生息状況はまだ不明である。

■**特徴**：耳介が大きく，尾が腿間膜より長く突出している。生息地としては，海上の小離島や市街地の建築物の中などが知られているが確認例が少なく，生息地も含めた生態的知見はきわめて乏しい。県内では，鳥取市若葉台の鳥取環境大学の校舎内で発見されている。

■**分布** 県内：鳥取市若葉台。県外：北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，中国，台湾。

■**保護上の留意点**：鳥取県内での確認は1例のみであるため，本種の生息・繁殖地が県内に存在するのかどうか判断できない。今後の調査が望まれる。

■**文献**：9, 28, 40, 41.

執筆：小林朋道

ニホンザル 霊長目 (サル目) オナガザル科

Macaca fuscata (Blyth, 1875)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



香川県小豆島 2007.6.16/撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：1960年代までは群れで確認されていたが，その後はときおり単独で目撃される程度だった。最近になって，人里近くに現れる個体が再び増加し，群れでの出現も目撃されるようになった。県内で保護すべき種であるかどうかの判断に十分な情報が不足しているためDDとした。

■**特徴**：10–80頭程度の群れで山林に生息し，果実や木の芽，昆虫などを食べる。オスは，離れ猿として単独で生活することも多い。

■**分布** 県内：鳥取市 (国府町，佐治村，用瀬町を含む)，岩美町，八頭町，智頭町，倉吉市関金町，日南町など。県外：本州，四国，九州，屋久島 (日本固有種)。

■**保護上の留意点**：全国的には，広葉樹林の縮小，里山の荒廃，中山間地の過疎化などに伴い人里への出現が増加していると考えられており，県内でもまだ被害が多くない現段階で，生息状況の調査，出現個体の奥山への追い上げ，広葉樹林の維持などの対策をとるべきであろう。

■**文献**：5, 66.

執筆：小林朋道